

S&Uだより

safety & useful 発行 No261

2019年8月10日
(株) マルジン

福井 TEL 0778-27-7200 FAX0778-27-7201
名古屋 TEL 0586-81-1895 FAX0586-81-1896
新潟 TEL 0258-94-5772 FAX0258-94-5773
福島 TEL024-983-3970 FAX024-983-3971

令和元年(2019年)7月に東京で夏日(最高気温が25度以上)にならなかった日が15日もあり、...

平成の30年間で、7月に8日以上夏日がなかったのは、平成5年(1993年)と平成15年(2003年)の2回しかありません。つまり、16年ぶりの寒い7月となりました。(梅雨明けの24日過ぎから毎日30度越えではありますが...)

梅雨前線の停滞で、九州地方は長期間 記録的な大雨となり、雨量が多い地域では土砂災害の危険性が高まっています。気象庁によると、積乱雲が連なる「線状降水帯」が発生したとみられ、各地で24時間雨量200~250ミリを観測しました。前線は長期間にわたり九州付近に停滞。雨量はさらに増え、気象庁は身を守る行動を早めに取りよう呼び掛けがありました。避難指示もいくどとなく出ていましたが 道路は冠水、たたきつけるような雨の中 逃げるのも危険なぐらいだったようです。異常気象で 世界各地でも 毎年 激しさが増しているような気象状況です。

有識者が予見するように 地球は温暖化の影響で これから本当に各地で異常な気象災害が発生してきてしまうのでしょうか? 昨今の「例年とは違う」雨や台風、豪雪などの状況を思うと 本当に心配な事です。

気象庁の これからの長期予報によれば「例年より高めの気温で推移するのは東北以北」ということで...

西日本は平年並みの推移だろうということです。ただ 台風なども突然発生して日本を縦断するコースをとることもしばしばで油断はできません。あまり大変な災害となりませんよう ただただ祈るばかりです。

8月もお盆を過ぎるころには 驚くほど日が短くなってまいります。マルジンも モノレールの終点まで行くと1時間以上かかるような超ロングな現場も頂戴しております。1日の作業時間が限られる中 つるべおとしのように夜がやってくると そうでなくても気ぜわしいので 安全面がおそろかにならないよう十分に注意が必要です。

マルジンも他人ごとではありませんが 労働人口の減少による労働力不足が大きな問題となって、経営に影響がでる企業も出始めました。人材確保のために従来以上の賃金が必要になり、人件費の負担が増えることも問題となっています。これらの課題を抱えた現在、従来の日本企業での働き方を見直すためにも慣習化した長時間労働や残業などを減らし、働き方を見直すことで生産性を高めるのが目的で 政府が打ち出した「働き方改革」ですが デメリットも多いようで 早くも柔軟な働き方を促進させるとして「副業・兼業の推進」において 通算すると言っていた 労働時間を通算しない事に決めたようです。それでは 残業時間についても 現行法では違法な長時間労働も合法となってしまう 骨抜き改革ではないか?と懸念されて始めました。

例えば、本業で法定労働時間の八時間働いた後、副業で六時間働くと、月間(二十日間の勤務)では本業百六十時間、副業月百二十時間も働くことになり、残業上限で「過労死ライン」とされる百時間を二十時間も超える。現行ルールでは違法となり、企業は罰則を科せられるが、通算しなければ本業でも副業でも法定時間内で働いていることになる。上限規制は空文化し、長時間労働をする人が増える懸念があります。

また法定労働時間を超えた時間外労働には25%増などの割増賃金を払わねばならないが、この義務もなくなる。企業の負担が軽くなる分、長時間労働の歯止めもかかりにくくなるといわれています。

過労死に至った場合の裁判でも企業の法的責任があいまいになる問題が出てきそうです。

そうなると...前より悪くなるのでは? そんな気がします。デスクワークで「お客様が待っておられる書類、あと少し残業すれば出来上がる」ちょっと無理すれば「お客様も喜ばれ、その喜びを見て自分もうれしい」と皆が嬉しくなっていたのに今は ノー残業だから「明日になります。」と断ります。仕方ないことなのかもしれませんがお客様は悲しい、それを見て自分もつらい...以前と比べ「ノイローゼ、神経症」に陥る社員が増えたとか...そんなデータがでてきたそうです。マルジンで言えば「レンタルしてもらってる本機が調子悪い! なんとか今日中に復旧してもらえないか?」そうお客様からSOSが入ったとします。予定はあります...ここへ今日走れば帰りは遅くなります。もしかすると現地宿泊で 帰りは翌日になるかも...しかし、お客様の切実さがわかるだけに「NO!」は言えませんよ。皆がつらさを秘めて ギスギスした人とのつながりで 本当に仕事になりたっていくのでしょうか? これからも 心の伴う対処が必要ですね。

マルジン 8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

<モノレールレンタル料(賃料)の一覧表>

「モノレールレンタル料(賃料)の一覧表」

本年4月に改訂されております。

ご入用の方は

マルジン(0778-27-7200)までご連絡ください。

2019年8月第261回は～モノレールの設置手順～について

モノレール設置計画(モノレール設置手順)

工種	施工方法	危険要素	安全対策
現地確認	モノレール架設ルートに埋設物がないか、埋設物資料等により現地確認を行う。最適なルートが選定できれば、そのルートに応じた必要資材を準備する。	熱中症 体調	入場時作業員全員の健康状態を確認する。
起点部の設置	牽引車前進方向にレール先端の中子に向くようにレールを並べる。レール起点を決定し、動力車、台車を取り付け後、レール最終部付近に逸脱防止板を取り付ける。	打撲	レール等長尺物を移動する場合は 周りに
レールの据付	レール先端中子を次のレールに差し込み 連結部に支持金具、支持ボルトを取り付ける。	横転	各ボルトの締め付けを確実にする。
主支柱の取付	レールに取り付けた支持金具に主支柱を差し込み 沈下板を通し 支柱が垂直になるよう準備し、電動ハンマー、大ハンマーを使用して支柱を打ち込む。 レールの上部より主支柱が出ないように、支持金具と固定する。	手詰め 横転 転落	大ハンマー使用時には手を挟まないように注意する。各ボルトの締め付けを確実にする。
動力車及び台車の取付	以上の作業で3本程度の敷設できたら、動力車及び荷物運搬用台車をレールの最後部より人力等で個々組み込む。 連結部、ローラー部の取付ネジを確実に固定する	指詰め 足詰め	牽引車の取付は二人以上で行い、お互いが声をかけながら実施する。
資材運搬	荷物台車に必要な資材を適量積み込み、進行方向に資材を配置する。斜面が急なところでは、レールを1本組み立てるごとに次の1本分を手配する。資材はバランスよく積み込み、搬送時は荷締めおよびゴムバンド等を用いて台車に固定する。	挟まれ	発進の際は周囲を確認し、機械付近に人を近づけないように注意する。 積み込み積み降ろしは必ずエンジン停止して行う。
レールの据付	レール先端中子を次のレールに差し込み 常にレールの上部面の傾斜を修正機で水平にし、立ち木等支障物をバンダーで避けながら 連結部に支持金具、支持ボルトを取り付ける。	指詰め	
主支柱の打ち込み	主支柱を打ち込む際は、支柱先端が開かないように打ち込み金具を使用する。土層の条件が全て同じではないので、必ず沈下防止板又はアンカー固定金具を使用して沈下及び横ブレをふせぐ。また沈下板はそれぞれの機種または土層の状態に合わせて着岩と同等か、それ以上の支持を保持する構造とする。 レール上面より支柱が出ないようにするまで打ち込むか、無理な場合はエンジンカッターなどで切断する。(走行時機械と接触する恐れがあるため)	指詰め 転倒 山火事 飛散	主支柱打込み時には、足元を十分に確保し、周囲を確認しながら作業をする。 発電機の据え付けは平らな場所を選び、常に安定した状態で据え付ける。燃料補給時には火気厳禁で行う。 打込み金具から破片が飛散しないよう使用前に点検する
補助支柱の取付	レールの上面の高さが50cmを超える場合や軟弱地盤、岩盤箇所などでは補助支柱を取り付ける。その場合、主支柱と補助支柱のすきまを30cm以上確保する(走行時、機械と接触するおそれがあるため)	横転	各ボルトは 締め付けを確実に実施する。
終点部の設置	終点部は積み降ろしを考え、なるべく平坦となるように敷設する。 乗用台車用の分岐レールを取り付ける。 終点部にレール終点逸脱防止金具を取り付ける。 レール末端部付近に 逸脱防止板を取り付ける。	逸走	分岐レール取替時、ネジを確実に締め付ける。
ストッパーの取付	起点部(基地)、および終点部の適切な位置にストッパーを取り付ける。必要にストッパーを二個取付け、誤作動による逸脱、脱線を防止する。		
設置点検	支柱およびレールの設置が終了したら、全線にわたって設備の点検を行う。取付金具の各部ネジ締めおよび補強箇所の点検を行う。(必要な場合は追加補強を実施) ストッパー、逸脱防止板の再点検を行う。 牽引車の各部取付けネジを確認する。 残材の後始末を行う。	横転・逸走	第三者を含む通行人等に対する防護施設、及び注意喚起のための看板を設置する。
試運転	空荷の状態でルート全線にわたって前進、後進走行による試運転を行う。 走行中、ブレや傾いたところはないかなどを、よく確認する。 ラックオイルの点検状況を確認する。 異音、異臭がないか確認する	横転・逸走	「単軌条運搬機の設置に関する安全指導基準」に準拠し、設置完了後、テスト走行を行い、架設レールや制動装置に異常がないかを確認する。
引渡・取扱説明	モノレールの使用者全員に対して、取扱説明会(安全衛生講習会)を実施する。講習会受講者には「モノレール運転講習終了証」を発行する。	知識不足	安全衛生講習の講師は 十分な知識を有する資格者(モノレール技士1級等)が行う